

山階 鳥研NEWS

— 築にたくす進歩の本場 —

この個体は、2005年6月22日に北海道幌泉郡えりも町沖で漁船に混獲されて回収されたもの。装着されていたニュージーランド国立博物館の足環をもとに同国環境保護省に問い合わせたところ、同国南端に近い繁殖地のコフイン島で2001年1月に性別不明の成鳥として足環を装着、放鳥された個体であることがわかった。放鳥地と回収地は直線距離で約1万キロ離れている。回収された個体は、体重が重く翼が換羽中だった。本種は9月から4月にかけてニュージーランドと南アメリカ南方の島々で繁殖し、5月から9月頃まで北半球で過ごす。ミズナギドリ類の生態に詳しい岡奈理子主任研究員は、「ハイイロミズナギドリは北半球で翼を換羽するので、渡り途中に一時滞在したのではなく、既に渡り

ニュージーランドの繁殖地で足環を装着された海鳥のハイイロミズナギドリが、北海道で回収された。日本の標識調査での本種の回収例としては3例めとなる。

を終え、魚類の豊富なえりも町沖で潜水して活発に採食活動を行っていたのだろう」と述べている。



えりも町沖で回収されたハイイロミズナギドリに装着されていたニュージーランドの足環

ハイイロミズナギドリ 1万キロの旅 — ニュージーランドで標識の個体回収